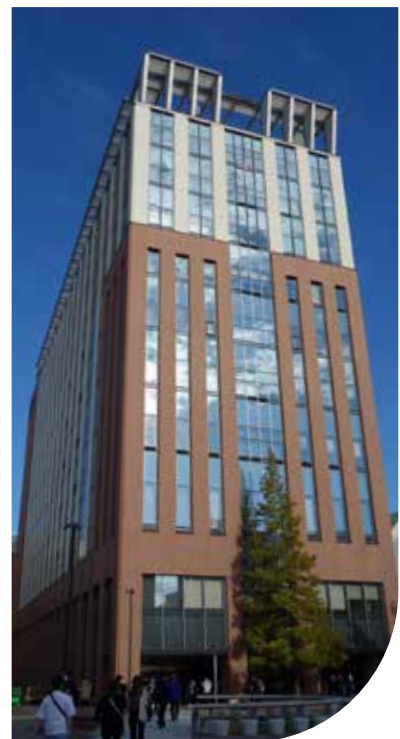


2023年度 後期

関東学院大学 寄附講座報告書

～グリーン購入がひらく環境未来都市～



ごあいさつ

中小企業においても、SDGs（持続可能な開発目標）への取り組みは必須であり、近年は、積極的に取り組む企業が増えてきました。会員のみならずもSDGsの一環としてグリーン購入をはじめとした環境への取り組みを進めておられると思います。

SDGsは、企業にとっては、CSR（企業の社内的責任）課題の中から、社会セクター側の代表格でもある国連が重要と判断した取組みを指定したものであり、企業からみれば、社会性戦略上の重要課題です。したがって、取り組みを進めたら、事業評価を行い、マネジメントレビューに乗せる必要があります。

ただ、SDGsのように社会性の高いCSRの場合、社会的意義と経営的意味の両方を評価せねばなりません。

このような評価は大変ですが、近年の大学教育においては、CSRや環境問題、まちづくりなどに力を入れている大学が多く、そのような教育を受けている学生の感想や意見は、企業にとって得るものが大きいと思います。

寄附講座は大学の正規授業の一環で行われ、学生には単位も出ますが、内容や運営については、担当する各企業が自由に設計できます。具体的には、授業の中で自社の取組みや課題に関するテーマを設定し、学生にグループディスカッションをさせて意見や提案を吸い上げるということも可能です。また、授業後に、自社で作ったアンケートを実施したり、指定したテーマでレポートを提出させたりすることも可能です。アンケート用紙やレポート用紙のご用意がなくとも、授業で使うレスポンスシートやレポート用紙をそのまま使って頂くことができます。

また、寄附講座は、「環境」をテーマに専門的に学んでいる学生が多く履修していることから、講義への関心が高い学生が履修しています。関心をもって学ぶ学生に接すると、講座を担当された社員の方にも刺激になるのではないかと思います。会社の業務や活動を担うことでやりがいを得ると、会社への求心力や業務パフォーマンスも高まります。寄附講座を通して良い社員を育てることもできるのです。

さらに、「環境」への関心が高い学生に自社をアピールする面もあると思います。感想カードを見ると、講義を聴いた学生に伝わるものが大きいことがわかります。当寄附講座は、学生が実践的学びを得る場として教育上きわめて大きな意義があるとともに、企業にとっても様々なメリットがある講座です。ぜひ貴社もご参加いただけましたら幸いです。



横浜グリーン購入ネットワーク会長
横浜市立大学国際教養学部 教授
関東学院大学理工学部 講師

影山 摩子弥

2023年度 関東学院大学寄附講座内容一覧

講義順	日程 全て金曜日	事業者名	タイトル
1	9月29日	Permanent Planet 株式会社	企業がSDGsを取り入れる必要性
2	10月6日	グリーン購入ネットワーク	グリーン購入のススメ モノの選び方で世界が変わる
3	10月13日	株式会社トライフ	オーラルピース ビジネスと福祉の両立を目指す事例として
4	10月20日	株式会社ダイイチ	ユニフォームを通じて社会課題を解決するダイイチの取り組み
5	11月10日	かんきょうデザインプロジェクト	“ごみ”は人間の無関心がカタチになったもの
6	11月17日	株式会社大川印刷	経営者に学ぶリーダーシップと経営理論
7	11月24日	生活協同組合ユーコープ	ユーコープ社会貢献活動の取り組み ～フードドライブ・フードバンクの取り組み～
8	12月1日	横浜市	未来の公園の理想像を描いてください (仮称) 旧上瀬谷通信施設公園を題材に
9	12月8日	太陽油脂株式会社	エシカル消費でSDGsに取組もう
10	12月15日	東洋電機製造株式会社	「東洋電機製造のサステナビリティ活動のご紹介」 「鉄道の歴史、鉄道のエコ」
11	12月22日	株式会社オカムラ	オカムラの木材利活用による“サステナビリティの推進”

【対象学生】

2年生から4年生まで75名

【授業の時間帯】

2023年9月29日（金）から毎週金曜日 13:15～14:55 全11回



企業がSDGsを取り入れる必要性

2023年
9月29日



Permanent Planet株式会社 事務局長：池田 陸郎

講義内容

企業経営とSDGsの関係性や必要性を、国内外の最新動向や事例とともにできるだけわかりやすく講義を行った。

1.SDGsとは

世界と日本をとりまく状況について
自治体の取組

2.SDGsから考えるビジネスチャンス

事業におけるSDGS実装の必要性

3.SDGs達成へのコミュニケーション

SDGs達成はどんな仕事でも貢献できる！

4.事例で見るSDGsへの取組

株式会社日本海開発 (石川県能美市 2020年未来都市)
湘南青少年環境会議in逗子2023

弊社の取組

■スポーツイベント×サーキュラーエコノミー (画像左)

■生物多様性・環境教育の取組 (画像中)

■「逗子SDGs絵日記」プロジェクト (画像右)



受講生の感想

- ・環境にやさしい靴にとっても興味を持ちました。靴に含まれているマイクロプラスチックが使うことですり減って最終的に海に流れ着くという流れは今まで考えたことがありませんでした。いくらマイクロでもプラスチックはプラスチックであり、ごみをポイ捨てしてる事と本質的には変わらないので、意図せずとも環境を少しずつ壊しているということに気がきました。環境にやさしい靴は天然ゴムなどの自然素材でできており、すり減っても自然に帰るのでとてもよい案だなと思いました。今回のこの講義を通して、自分の些細な行動でも環境を壊していることに気づきました。
- ・今回、環境問題とその対策を企業がどのように行なっているのかということについての講義だったが、個人的には今まで風船やプラスチックゴミ、日焼け止めなど環境問題を常に考えて生活していたわけではなかったが、それが実際に会社の経営を苦しめたり、逆にその対策が功を奏したりと、これからの社会に大きく作用していくものだと知ることができた。また、環境問題だけではなく、差別問題や貧困問題なども雇用者の意識や会社の評判、経営理念などに大きく作用しているためこれからの未来を担う我々は今まで以上に視野を広げ、より多くの方がより過ごしやすい世の中を作るために多くのことを意識していかねばならないのだと再確認させられた。
- ・自分たちも環境問題に対して改めて向き合い、出来ることから実行していく事が将来自分が生きていくために大切だと思いました。自分は通学で原付を使っているのですが、それもCO₂を排出してしまっている、使って出しちゃうのはしょうがない、そのあと二酸化炭素を減らす活動に参加したり、森林に寄付したりするのが大切、それを中学生でしてるのを聞いて自分の考えは遅れてる、行動力がまだまだ足りてないことを自覚しました。

担当者の感想

学生が就職先を選ぶ際の基準になりつつある、脱炭素経営やSDGs経営について幅広く知識を深めてもらいたいと思い、多くの事例を交えて講義を行いました。また、弊社もこれから社会を担うであろう若者が、自分自身で未来を創造していくために、何を考え、感じ取っているかを知る良い機会となりました。寄附講座は弊社のようなスタートアップ企業も学生のみなさんに認識いただける良いチャンスであり、またいずれはインターンとして参加してみたい、一緒に働いてみたい、と思われるように今後も積極的に参加し、広く発信していきたいと思えます。



グリーン購入のススメ モノの選び方で世界が変わる

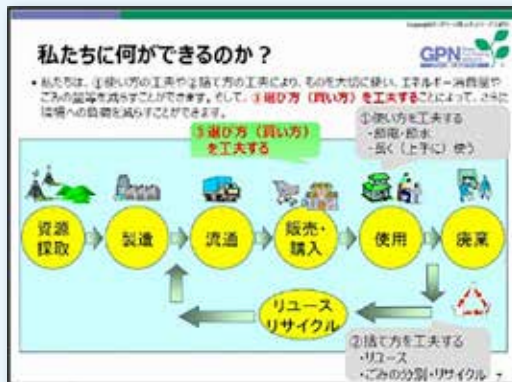
2023年
10月6日



グリーン購入ネットワーク 事務局長：深津 学治

講義内容

グリーン購入の意義や必要性、効果等の基本的な情報の解説に加え、地球温暖化の加速など、地球を取り巻く環境問題とグリーン購入とのつながり、身近な毎日の生活と環境配慮型製品、SDGsとグリーン購入の関連性等をテーマに講義を行いました。また、グリーン購入をさらに身近に感じていただくために、①自分の出身自治体、②横浜市立大学、③自分のアルバイト先、④就職活動で気になっている企業・団体のうち、2団体のグリーン購入の取り組みを調べ、発表していただきました。



グリーン購入の取り組みを調べる

以下のうち、2団体のグリーン購入の取り組みを調べる

- ① 自分の出身自治体（市町村）
- ② 関東学院大学
- ③ 自分のアルバイト先
- ④ 就職活動で気になっている企業・団体

調べる内容	<ul style="list-style-type: none"> 方針の有無 対象分野 実績
調べる方法	各団体のホームページで検索
検索キーワード	グリーン購入、グリーン調達、CSR調達、温暖化対策実行計画

受講生の感想

- ・自分の出身自治体である横須賀市のグリーン購入について調べた。調達方針があり、紙類、文具類等様々な品目を対象としていた。紙類が99.2%、オフィス家具等やエアコンディショナー等で、ほぼ100%の調達率であることが分かった。
- ・自分のアルバイト先ではグリーン購入はしていなかったので、今後購入したらどういった取り組みをしていくか自分も調べてみたいと思う。
- ・環境保全の活動の中で、自身ができることは食品ロスの削減であると感じた。日々、消費する食材を無駄にしない使い方を心がけたい。また、自治体の取り組みは環境問題に大きく関わり、責任ある取り組みが必要だと感じた。

担当者の感想

自分のつながりのある団体や組織のグリーン購入の取り組みを調べることで、具体的な事例に触れることができ、一般論としての知識だけでなく、社会のトレンドやSDGsの目標達成に向けて求められる事柄を考える機会となったと思います。



オーラルピース ビジネスと福祉の両立を目指す事例として

2023年
10月13日

ORALPEACE株式会社トライフ：植田 貴子

講
義
内
容

高齢者や要介護の方々向けの安心安全な口腔ケア製品の研究開発、製造、販売を通じて、障害者の賃金アップを目指すオーラルピースのビジネスモデルをご紹介しました。なぜこのような取り組みを開始するに至ったのか、企業としての課題や壁なども交えてお話ししました。



受講生
の感想

- ・ 障害者の雇用など、フットワークが軽く、柔軟に対応できる企業だからこそその事業展開に魅力を感じた。・ 歯磨きの面から環境に寄与出来ることを知り、どんな分野でも工夫やアイデアがあれば、世の役に立つことを行えることを知ることができた。
- ・ 飲み込むことのできる歯磨き粉という一つの製品が高齢者や病気などで歯磨きをうまくできない人々を助け、さらにその製造過程を障害を抱えた人たちに手伝わってもらうことで、障害を抱えた方の賃金の向上にも貢献してとても驚いた。
- ・ 製品を使用している顧客の声や要望を聞くことでまた新たな製品を生み出せることができ、また新しい顧客ニーズを満たすことができ活動の範囲を増やせることを知ることができた。
- ・ 今回はオーラルピースさんの講義を受けたのですがとても正直というか包み隠さず話して下さりとても印象が良かったです。特に今回紹介頂いた中の商品で飲み込んでもしっかり歯磨き粉で殺菌成分も入っているというもので宇宙飛行士が使っていたり、お年寄りにも使えるとても素晴らしいものだと思います。

担当者
の感想

- ・ 授業中に実際に使ってくださる方を募り、飲み込んで大丈夫な口腔ケアスプレー製品をお試しいただきました。
- ・ 障害者の賃金アップを大きな軸とした会社です。企業として利益を出すこと、障害者の賃金アップや仕事を創り出す目指す福祉の面。その両立は決して簡単ではなく、試行錯誤であり、難しい点なども含めて知っていただく機会となったのではないかと思います。ありがとうございました！



ユニフォームを通じて社会課題を解決する ダイチの取り組み

2023年
10月20日



株式会社ダイチ デマンドセンター：柳下 元紀
店舗推進課：唐子 友里恵

講義内容

①働きがいも経済成長も！

普段、街中でも目にする企業ユニフォームですが、身近なユニフォームを知ってもらう為に事例を交えてご紹介しました。働く環境を的確に把握し、働く環境に適したユニフォームを提供する事が私たちの役割です。企業の象徴として、企業イメージと合ったデザイン、動きに合わせた仕様、安全に仕事ができる点など、留意すべき点は多数あります。私たちはユニフォームを通じて、企業で働く人たちがユニフォームを着る事で安心して働ける環境を作る事を担っています。



②GO職場スターズ ～職場で働く人をスター選手に！～

ユニフォームを着用する全ての皆様にスター選手にしたい！というコンセプトに職場ではたらく皆様にスポットライトを当て、最高に輝く劇的な瞬間を収めた写真を撮影する企画についてご紹介しました。撮影した写真は、着用企業のホームページや採用に活用いただいています。

③ユニフォーム業界とアパレル業界の環境問題について

ユニフォームの市場規模と他市場の市場規模を例に挙げてご紹介しました。また、各製造工程における地球環境に与える影響についても数値を交えてお話しもしています。
バイオマス由来のポリエステル、使用済みユニフォームのリサイクルなど、環境に配慮したユニフォームについてご紹介しました。

受講生の感想

- ・ダイチ社のSDGsへの取り組みについて学び、それが企業制服のデザインにどのように反映されているかを理解しました。特に、顧客や地域社会と連携し、着用者の快適さを考慮したデザイン設計は印象的でした。また、異なる業種の企業とのパートナーシップを通じて、労働環境の改善や安全性の向上に貢献している点も学びました。
- ・私たち一人一人の選択が環境に良い影響を与える可能性があることがわかり、今後の消費行動を見直すきっかけにもなりました。
- ・仕事のユニフォームを通してSDGsの達成を目指し、特に会社にあったユニフォームを作ることにより良い仕事をする事と、環境に配慮することの普段は全く交わらないであろう二つのSDGsの問題を両方解決に向けて日々活動しているのがすごいと思いました。

担当者の感想

普段目にする事の多い企業ユニフォームですが、見過ごしていることが多く、より身近に感じていただける内容を意識した講義内容としました。

ユニフォームの魅力を知っていただくことはもちろんの事、ユニフォームがSDGsや環境課題へアプローチができるツールであることを知っていただく良い機会になったかと思います。

学生一人一人が普段の生活の中で環境課題を意識した行動を実践していただければ嬉しい限りです。



“ごみ”は人間の無関心がカタチになったもの

2023年
11月10日



かんきょうデザインプロジェクト (武松事業デザイン工房株式会社) : 武松 昭男

講義内容

環境問題は色々な要素が絡むことから、関心を持つことが難しいと言われています。しかし、「人は気づいた範囲では最善を尽くしている」と言われるように「気づき」を得られれば、環境に対して人々の「無関心」を「関心」へと導くことができます。そして環境問題は「人間の活動が原因」と言われています。これは、自然現象が原因なら人間は何もできませんが、人間が原因なら人間が解決できる、ということです。人間の活動が原因ならば、それは希望の光です。

ひとりひとりが解決に向けて行動できるように、各自にとって具体的で実感の伴う活動の紹介とshort storyとして4つの身近な環境問題を事例に交誼を進めました。



受講生の感想

- ・古着が好きでよく購入するのですが、どうやってリサイクルしているのか知ることができて良かったです。
- ・印象に残ったことは1970年から今の法律の元になったものが出来ていて、基本的な理念は完成していたところ。およそ100年前の時点でこんなにしっかりとしているとは正直思っておらず、話を聞いてみるともう明治時代はほとんど現代なのだと実感しました。
- ・ハイヒールができた理由と環境の話が関係しているというところは非常に興味深かった。
- ・1956年に水俣市で流行した「水俣病」は、メチル水銀を含んだ工業廃水をそのまま海に流してしまったことで、水俣湾周辺の魚介類の汚染が原因で発生しました。
私たちが油をそのまま排水溝に流したり、ゴミを海や川へポイ捨てしたりしてしまうと、感染症を引き起こしてしまう可能性があるため、一人一人が意識する事で防げる事が分かりました。
- ・”ごみ”は人間の無関心が形になったものという言葉聞いて道端に捨ててあるゴミを見かけたら少しでも拾いたいとこの講義を聞いて思いました。

担当者の感想

昨年に続いての登壇の機会を頂き、感謝申し上げます。講師が話し続けるというスタイルでも多くの異なる観点からの感想を頂くことができたことは、今後の活動に糧になります。活動のアウトプットがいかにかのステップに良い影響をもたらすかを実感した講義となりました。



大川印刷
OHKAWA PRINTING, SINCE 1881

株式会社大川印刷 代表取締役：大川 哲郎

講義内容

自分が関東学院高校出身であることから、学生時代から社会人になるまでどんな道を歩んできたのかについて話しました。

そして社会的印刷会社として再生可能エネルギー 100%の印刷会社になっていった経緯、そして今後の挑戦としてペーパーレス・デジタル化を再生可能エネルギー 100%で行う新事業について解説しました。全般を通じて企業の社会的責任とSDGsとの関連について照らし合わせながらの講義としました。



受講生の感想

・今回の講義を経て、私が印象に残ったことは、SDGsメモ帳、手話で会話です。ここ最近の世間は、新型コロナウイルスの影響もあり、マスク着用となり、口元が見えないことで相手の発している言葉がわからずコミュニケーションが取りづらくなっています。このような状況の際、パラパラ漫画がもっと広がれば聴覚に障害がある方ももっとコミュニケーションが取りやすくなるのではないかと感じました。またそのような聴覚に障害がある方にはChatGPTがとても有効であると考えました。それに加えて紙の必要性を理解しました。地球で生活をしている以上、災害は起こりうることで、そこをデジタルにしてしまうと機能なくなってしまうのでそういったところで物に残しておくということが大切だと改めて考えました。

担当者の感想

学生さんの考えや姿勢も様々ではあるが、寄り添うことにより理解し合えることが感想からも感じられ、こちらも学びとなった。YGPN会員企業のインターンシップ受け入れにつながると良いと感じた。



ユーコープ社会貢献活動の取り組み ～フードドライブ・フードバンクの取り組み～

2023年
11月24日

COOP 生活協同組合ユーコープ：櫻井 展子

講義
内容

ユーコープが取り組む社会貢献活動として、「フードドライブ活動」があります。集めた食品の寄贈先である「フードバンクかながわ」事務局長 藤田 誠氏を講師に迎え、県内のフードドライブ事情や貧困の実情、日本国内のフードロスの実情について講義を行いました。



受講生
の感想

- ・私は小学生や中学生の頃、毎日お弁当を親に持たせてもらっていましたがそれがかなわない子供達がたくさんいることを理解した今、今暮らしている神奈川の地に貧困で困っている家庭があることを常に意識私生活して参りたいと思いました。ぜひフードバンクに遊びに行きたいと思いました。
- ・僕は一人暮らしでご飯とかを捨ててしまうことが多いのですが、この講義を聞いて食品ロスをなるべくなくし、なるべく食べ残しを無くしていこうと思いました。そのためには食品の消費期限、どれだけの量を食べるのかを考え買いたいと思いました。日本にはたくさんの食品ロスがあることを知りました。神奈川県だけでも522万トンも食品ロスがあるということを知り驚きました。食品ロスを燃やすのに二酸化炭素が増え、環境問題や莫大な費用がかかる問題などのたくさん問題があるということがわかりました。そのような問題を解決しようとコープさんの無駄になってしまう食品を集めるフードドライブを実施したり、地域の人と協力し色々な人に食品ロスについて知ってもらおう活動を行っているということが素晴らしいなと思いました。食品ロスだけでなく貧困問題についての活動も行われているということも素晴らしいなと思いました。

担当者
の感想

毎回、感じることで、学生の皆さんに興味を持って聴いていただくことはとても難しいと感じています。感想を拝見する限りでは、伝えたいことについては一定伝わったのかな…と感じます。ユーコープの取り組みについて若い世代に伝える機会が少ないため、関心を持っていただけることはとてもありがたいです。



未来の公園の理想像を描いてください (仮称) 旧上瀬谷通信施設公園を題材に

2023年
12月1日

横浜市 環境創造局公園緑地整備課：北野 紀子、近藤 菜々美、吉野 美沙樹
都市整備局国際園芸博覧会推進課：岩田 秀樹

講義内容

- ・ 2027年に開催予定のGREEN×EXPO 2027（国際園芸博覧会）及び会場跡地に整備予定の（仮称）旧上瀬谷通信施設公園について紹介
- ・ GREEN×EXPO 2027の理念や取組を踏まえた新しい公園を目指す（仮称）旧上瀬谷通信施設公園を題材に、ワーキング形式で未来の公園の理想像を描いてもらうことを通して市の取組について理解を深めてもらうとともに、市側も将来を担う世代の考えを知る機会とした



ワーキング:やってみましょう

○目標
・各グループでアイデアをまとめてひとつの公園の姿に

○流れ
・STEP①個人ワーク 10分
・STEP②グループ内共有 25分 (1人約3分)
・STEP③グループまとめ 20分
・STEP④各グループ発表 25分 (1グループ3分)

○キーワード
・気候変動(カーボンニュートラル)
・生物多様性(ネイチャーポジティブ)

まとめ方
アイデアをまとめて
アイディアに共通
するキーワードを決め

受講生の感想

- ・今回は生物の多様性やカーボンニュートラルについて考え、こういった公園にしていくのが良いかといった内容でグループワークをし、意見を交換しあいながら一つにまとめていくという作業ができてとてもいい機会でした。また自分たちのグループ以外の発表を聞いていくうち、自分たちのグループには無い案が沢山ありその内容も素晴らしかったです。
- ・今回の授業を通して、公園における環境の改善、ラウンドスเคープによる持続可能なライフスタイルを実現する公園の考え方や配置について深く考えることができました。
- ・横浜市から、2027年国際園芸博覧会の計画を聞き、国際的な園芸・造園の振興や花と緑のあふれる暮らし、地域・経済の創造や社会的な課題解決への貢献を目的とした取り組みを行っていることが分かった。

担当者の感想

- ・普段若い世代の方々との接点がないため、自由な考え、アイデアを伺うことができた今回の講義では多くの学びがあり、とても貴重な機会となりました。
- ・今回の講義をきっかけに、GREEN×EXPO 2027を中心とした横浜市の取組に興味を持っていただき、また先々様々なイベント等に参加いただければ幸いです。



エシカル消費でSDGsに取り組もう

2023年
12月8日

TAIYO YUSHI 太陽油脂株式会社 人事総務グループ 総務 CSR チーム：岡 英雄、原 充宏、矢田 馨

講義内容

- 1.太陽油脂のSDGs/環境への取り組みについて知る
- 2.環境や人体に対する石けんのやさしさや、SDGsとの関係を学ぶことでエシカル消費の普及を計る
- 3.石けんの原料としても使われているパーム油について、現地の状況やRSPO認証制度について学ぶ



企業紹介と当社のSDGsや環境への取り組みを紹介させて頂いたのち、なぜ石けんが環境や人体に対してやさしいとされるのかについて、石けんの「はたらき」や「性質」、正しい使い方について説明し、実験など映像を視聴して頂きながら講義を行いました。

パーム油に関する講義では、基本的な説明から様々な課題（森林減少や生物多様性消失、泥炭地開発、労働問題など）を説明し、RSPO認証制度の紹介や環境にやさしい製品を選んで使う「エシカル消費」の大切さを伝えました。

受講生の感想

- ・森林伐採を行いその土地で農業をする場合、建物を作る時と違い、自然を有効活用しているため大きな問題にはならないと認識しておりました。そのため伐採や野焼きによる土地の確保をする際有害なガスが出たり、それによって国内で紛争が起きていることを知り驚きました。
また、SDGsの内容から水質や飢餓を無くすといった観点であり、新しい視点から環境問題を学ぶことができ、とても勉強になりました。
- ・今回の講義を聞いて、油脂や石鹸、パーム油が抱える問題について知りました。石鹸については、色々な種類がありその中でも食用石鹸が良いものだと思います。川や海に流してしまっても魚や微生物に分解され環境に優しいのは素晴らしいと思いました。しかしいくら環境に優しくても流し過ぎれば環境に変化をもたらしてしまうので注意が必要だと分かりました。次にRSPOという言葉を知りました。パーム油が抱える問題のパームを作るためのプランテーションを作るため森林が伐採されたり燃やされる問題や生物多様性の消失、児童労働や土地を巡る紛争が起きていて、貧困の削減や生態系の保護、持続可能な産業としてのパーム油が標準となるように市場を変革するものだとわかりました。どの問題も重要な事なのでRSPOは非常に重要な役割を果たしているのだと感じました。
- ・今回の講義では、環境の面に配慮されたものづくりについて学んだ。今回は主にパーム油についての話を聞いたが、パーム油を使わないようにしていくのではなく、生産方法を持続可能なものにしたり持続可能なパーム油を選んで使うようにしていくという取り組みが行われているということがわかった。
- ・私はパーム油という油は今まであまり聞いたことがなかったが、普段からかなり使っていること、そのパーム油を作るためのアブラヤシの実を収穫するために、森林破壊、温室効果ガス、土壌破壊、労働問題、紛争などの環境問題や労働問題といったものがたくさん起きてしまっていること、それを解決するためにRSPOという会議をする場が設けられていることを知ることができた。
- ・今回太陽油脂さんの講義を聞いて普段何気なく使っている石鹸や洗剤についてとても面白い話を聞くことが出来ました。石鹸が私たちのもとまで届く一つ一つの工程が理解できてとてもおもしろかったです。さらにその後の実験での分離や乳剤など色々な石鹸の性質を見れてよかったです。さらに面白い話を聞いただけでなく、普段の生活に役立つ知識も教えてくれました。泥炭地の問題や生物の多様性の問題では、普段の地球環境問題としてSDGsなどの話などが多いので今までとは全く違った視点での環境問題のお話でとてもおもしろかったです。今世界で起きている様々な問題を少しずつ知れてきているので自分も生活の中で環境問題に対して取り組めることがあったら積極的に取り組んで行きたいと思いました。

担当者の感想

今年度も関東学院大学の皆さまへ対面講義を行いました。

学生の皆さまの感想文を読ませて頂きましたが、講義の内容を良く聞いて頂いた様で、パーム油生産地での問題やRSPO認証制度、環境問題などを改善する事を目的とした商品、エシカル消費の大切さを知って頂けたと感じました。

SDGs 取り組み紹介を通して、サステナブルな製品づくりや取り組みを実践している企業だと認識して頂けたと思います。

ただ、パーム油の問題やRSPOについてほとんど認知されていない現状に、改めてエシカル消費を多くの方へ行動提起していく必要性を強く感じました。



東洋電機製造のサステナビリティ活動のご紹介 鉄道の歴史、鉄道のエコ

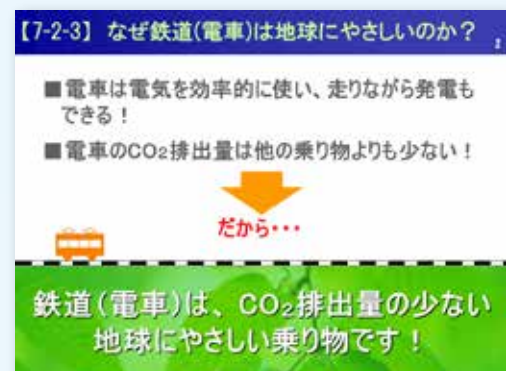
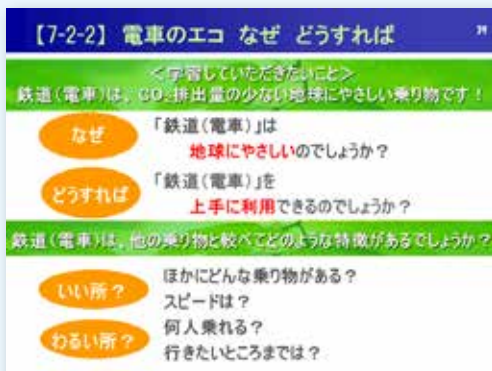
2023年
12月15日



東洋電機製造株式会社 人事部：浅井 和泉、森田 優
経営企画部 広報経営企画部 サステナビリティ推進室：上野 亜希子

講義
内容

東洋電機製造のサステナビリティ活動として、当社の環境理念やサステナビリティ方針、事業を通じた地球環境にやさしい社会・産業インフラへの貢献、金沢区にある横浜製作所での省エネやリサイクルの取組みをご紹介します。また、環境にやさしい乗り物である電車の歴史に触れながら、その電車にとって欠かすことのできない電機品を生産する当社の役割や、電車は他の交通機関と比べてエコな移動手段の理由などについてご紹介しました。



受講生
の感想

- ・電車がこんなにもCO₂排出量が少ないとは思いませんでした。あんなに大きな乗り物はかなりの環境破壊をしていると思っていたら、その真逆でかなり驚きました。
- ・鉄道の効率的なエネルギーの使い方がしっかりと説明されていてとても興味深かったです。よく電車を利用しますが、その裏側に様々な仕組みがあることにとても興奮しました。この講座を通して普段の生活のなかでの物事の新たな一面に気づくことができ嬉しかったです。
- ・身近な乗り物にも多くの工夫があり、それを手掛ける企業があることを改めて学びました。
- ・東洋電機製造には100年以上もの歴史があり、昔から日本の鉄道に寄与していることに驚きました。

担当者
の感想

継続して寄附講座に参加させていただいておりますが、学生の皆さんの関心をもって講義を聴いていただいている姿は講師としてもとても良い刺激になります。身近な乗り物である電車の環境優位性を改めて認識いただき、またそれを支える企業や工夫があることも知っていただく機会となりましたら幸いです。



オカムラの木材利活用による “サステナビリティの推進”

2023年
12月22日



株式会社オカムラ サステナビリティ推進部：那須、遠藤
カスタムデザイン部：角田

講義
内容

オカムラのサステナビリティの推進の取り組みの中で「木材の利活用による」部分にフォーカスを当てた講義を実施。

1.オカムラの経営理念、“オカムラウェイ 人を想い、場を創る。”を説明。

すべての人が生き活きと活躍できるサステナブルな社会を実現するために設定したサステナビリティ重点課題4分野に基づき具体的活動を紹介。



2.オカムラの考える木材の利活用。地球温暖化防のための活用と森林保全、経済活性化の関係等について、日本の現状と必要性を説明。オカムラの活動、製品の事例を紹介。



受講生
の感想

- ・ 固定観念で森林伐採にマイナスイメージがあったが、日本の森林の状況を聞いてサイクルさせることが大切だと考えが変わった。
- ・ 植林での温暖化対策は知っていたが、木の大量使用も行い資源の循環を行うことが大事だとは知らなかった。
- ・ 木造建築に実際に触れて生活することも子供の教育の一貫になると改めて感じ、木造校舎に通っていたので貴重な体験をしたと思った。
- ・ 森林の保全には、(消費者としては) 家や家具などの購入を通じて森の林業を支援することが間伐材の活用よりも有効だと知った。

担当者
の感想

「木は大切なので使ってはいけないものだと思っていた」というものが毎年数多く見られます。この考え方は、これまでの「森林資源・森林の保全」学習の中で「間伐材」や「森林破壊」等のワードが正しく伝えられ理解されてこなかったことが原因なのだと考えます。オカムラでは木製家具等を製造している企業責任として、本来あるべき健全な森の姿を小学校の環境出前授業を通し確実に伝え広めていきたいと思ひます。

